

2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 3 月 29 日作成)

小委員会名	建築アーカイブズ小委員会	主 査 名：加藤 雅久 就任年月：2018 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会	委員長名：西澤泰彦
設 置 期 間	2018 年 4 月 ～ 2022 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>国内の建築アーカイブズ組織相互のネットワーク形成と情報共有。 また建築アーカイブズのもつ課題への対応の検討</p> <p>1. 国内の建築アーカイブズ組織による合同活動報告会の開催 2. 建築アーカイブズの運営にかかわるワークショップの開催 3. 上記をつうじて共有された課題の整理と、それへの対応の検討</p> <p>初年度： ①建築アーカイブズ組織による合同活動報告会の開催（西日本中心） ②建築アーカイブズ運営にかかわるワークショップの開催 ③アーカイブズ、アート・ドキュメンテーション、キュレーション関係者へのヒアリング</p> <p>2 年度： 初年度と同様（①は東日本中心）</p> <p>3 年度： 初年度と同様（初年度、2 年度にもれた地域を中心）</p> <p>4 年度： 4 年間の総括としての合同活動報告会を開催</p> <p>上記の、建築資料所蔵機関との報告会、ワークショップと平行して、 （1）建築資料の収集・整理・公開のための共通の方法論を検討する （2）本会ならびに関連学協会の協力を仰ぎ、内外における建築資料の重要性と、その保存・運用に対する認識を高める</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：</p> <p>主査：加藤雅久（居住技術研究所） 幹事：齋藤歩（京都大学）戸田穰（昭和女子大学） 委員：遠藤康一（宇都宮大学、8d/遠藤康一建築設計事務所）、笠原一人（京都工芸繊維大学）、倉方俊輔（大阪市立大学）、佐藤美弥（埼玉県立文書館）、高木愛子（谷口吉郎・吉生記念金沢建築館）、藤本貴子（法政大学）、増田泰良（東京工業大学附属高等学校）、三宅拓也（京都工芸繊維大学）、本橋仁（京都国立近代美術館）、安田徹也（竹中大工道具館）、山崎鯛介（東京工業大学）</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2020 年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	1. (名称) 参加者数 名 (資料名)

対外的意見表明・パブリックコメント等	1.
<p style="text-align: center;">目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>今年度はコロナ感染症による移動、集会の制限による、小委員会会議としては2回の開催にとどまった。しかしオンライン開催によって通例よりも多くの委員の出席を得ることができ、また主査幹事による幹事会も頻繁に開催でき、かえって活発な議論を交わすことができた。その意味で、本小委員会委員のみの参加ではあるが、設置目的に掲げた「①国内の建築アーカイブズ組織による合同活動報告会の開催」については十分にその目的を達成することができ、「②建築アーカイブズ運営にかかわる」課題の整理も進んだと評価する。</p> <p>また、その中で議論を重ねた来年度大会研究集会案が採択されたことは大きな成果である。</p> <p>加えて、建築雑誌の「学会発」記事に当小委員会の活動紹介の機会を得ることもでき、会員に広く委員会活動をアピールできた。</p> <p>一方、先日開催された東日本大震災 10 周年シンポジウムでは災害アーカイブズが話題にならず、その重要性が学会としていまだに認識されていないことであらためて危惧を感じた。アーカイブズの多様な側面と有用性が認識されていない点が新たな課題として見いだされた。</p> <p>以下、具体的な活動を示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 10月12～20日 2021年度大会研究集会企画案メール審議（承認） 2. 11月16日 第1回小委員会会議開催。議事は下記の通りである <ol style="list-style-type: none"> 1) 2021年度大会研究集会案の採択報告、及び今後の準備について 2) 会誌編集委員会委員である藤本貴子委員から、本誌特集について相談 3) 建築資料を巡る今後の課題について、各委員の所蔵先の建築資料の現状も踏まえた上で議論を行い、下記の10点を今後の課題として提示した <ol style="list-style-type: none"> 1:建築資料の貸借等、展示の際の利用法ガイドライン 2:建築資料の保存・活用のガイドライン(所有者向け) 3:建築資料の保存・活用のミニマム化 4:資料所有者の世代交代と資料の散逸 5:資料処分の考え方 6:設計者、建物所有者・利用者、建築資料所有者をめぐる権利関係の整理 7:ミュージアムにおけるアーカイブズ資料を取り扱うことの限界 8:建築資料に含まれる個人情報の扱い 9:建築資料の建築教育への活用 10:資料整理・目録作成と、その後のレファレンス業務との連続性 2. 11月12-13日に文化庁企画で開催された近現代建築アーカイブズ講習会の第二回に齋藤歩委員が講師として参加した 3. 3月16日 第2回小委員会会議開催。議事は下記の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 2020年度活動成果報告の内容と委員名記載の可否（承認） 2) 2021年度活動計画・予算原案 3) 2021年度大会研究集会に向けた作業内容とスケジュール 4) 建築雑誌2021年4月号「学会発」原稿（報告） 5) 東日本大震災10周年シンポジウム（報告） 6) 今期小委員会の期限確認（2022年3月末）
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会議開催についてはオンラインで支障ない。今後はワークショップのような集まって実際に作業を共有する活動については制限を受けるだろう 2. 2021年度は研究集会の企画と資料集の製作が最大の課題